



ひばり

<http://www.meguro.ed.jp/meguro3j/>
mail meguro-3jp@meguro.ed.jp

目黒区立第三中学校

学校だより NO. 9
(通巻 67)

平成 23 年 (2011)
9 月 1 日 (木)

『自分で自分をほめたい』

校長 飯野 博史

夏休みが明けてちょうど一週間が経ちました。どの学年も落ち着いて生活しています。いいスタートが切れました。ご協力ありがとうございます。

今月は12日(月)、13日(火)の2日間、前期期末考査を行います。見通しを立てて計画的に準備を進めるよう指導します。放課後学習教室や土曜補習教室なども積極的に活用してほしいと思います。ご家庭でもご指導よろしくお願いいたします。

10月4日(火)の区連合体育大会に向けての競技・応援練習も本格的に始まります。今年度は陸上競技を専門にされている方4名を指導員としてお招きし、毎日曜日に練習をします。すでに2回実施しました。選手生徒たちが、自信をもって全力で競技できるよう支援していきます。応援よろしくお願いいたします。

さて、この夏休みオリンピックマラソンランナー有森裕子さんの講演を聴く機会がありました。有森さんは1992年のバルセロナオリンピックで銀メダル、1996年アトランタオリンピックで銅メダル、日本女子陸上選手では初の二大会連続メダル獲得という偉業を成し遂げました。私はその素晴らしい成績から、有森さんは天才的な恵まれたマラソンランナーだとばかり思い込んでいました。ところが講演をうかがうと、苦労や挫折の連続。しかし絶対にあきらめず、前向きに取り組む強さが人一倍あったことが分かりました。

股関節脱臼で生まれ怪我が絶えない、交通事故に遭い右足首を怪我する、スポーツが苦手でみんなと同じことが出来ないなど何事にも自信のない小学生時代でした。ところが体育の先生のひとことが人生を変えていきました。「お前しかもっていないいい所がある。人と同じでないことは悪いことではない。」初めて認めてくれる人に出会いました。この体育の先生の陸上クラブに入り、陸上とのつながりが生まれます。

中学校の先生からは「お前は頑張れるものをもっている。なんでもよい、一つでも自分が頑張れるものを見つけろ。」と言われ、みんながやりたがらない運動会の800m走に挑戦。家に帰ってからも必死で練習し、3年間連続優勝を果たします。

何の実績もないまま高校の名門陸上部へ。顧問の先生からは「しんぼうせい、あきらめるな。全員があきらめるまでお前はあきらめるな、ねばれ。」と言われ続けました。

生まれつきのO脚で補強が必要なとき、整形外科の先生は「立派なO脚じゃのう。」マイナス面を決してマイナスと言わずトレーニング方法を指導してくれました。社会人となりリクルートでの小出監督との出会い。小出監督も今もっているものをどう伸ばしていくかをプラスに考える監督でした。猫背を悩んでいたところ「きれいな猫背だ。練習しなくても走る姿勢が出来ている。」と言ってやる気を引き出してくれました。

それぞれの時代の恩師との出会い、その時々言葉が有森選手の力を引き出し、考えを変え、人生を変えていきました。私たち教員や大人の言葉の重みを改めて感じました。

苦労と挫折の連続。それを乗り越える前向きな気持ち、強靱な精神力。「初めて自分で自分をほめたいと思います。」アトランタオリンピックで3位になったときのインタビューで涙ながらに有森選手が語った有名な言葉、その言葉の思いを実感した講演会でした。

◎広島派遣生徒代表挨拶

8月6日、広島平和祈念式典に区小中学生の代表として本校の3年女子2名が参列しました。原爆のことについてたくさん学んできました。派遣団出発式で挨拶をしました。立派な文章だったので紹介します。「この度は私たち小・中学生派遣員のためにこの会を開いていただき、ありがとうございます。」

私がこの広島派遣に参加させていただこうと思った理由は、広島に原爆が落とされたという事実を自分で直接知り、目にしたいと思ったからです。

今まで私が授業などで習ってきたことは、広島に何年に原爆がこんな風に落とされたという“事柄”だけでした。だから私は本当に起きたことを見て、聞いて、その事実を知りたいと思いました。原爆が落とされてからもうすぐ66年が経ちます。私を含め、当時のことを知っている人は多くないと思います。原爆投下という絶対に忘れてはいけない“事実”を、現地に行き原爆にあわれた方々にお話を伺い、自分なりに考えを深めたいと思っています。

また、派遣員同士の歳が近いので自分の意見や考えを互いに言い合う中で、自分が感じたことなどを発信し、お互いに原爆についての理解を深められたらと思います。この貴重な体験をとおして平和とは何かや、今自分たちができることは何かを一人一人が真剣に考え、有意義な3日間にしていきます。

この広島派遣を企画・運営及び協力してくださった皆さまに感謝をし、しっかり学んできます。

最後に、3月11日の大地震から今も苦しみに耐えていらっしゃる被災者の方々の一日も早い復興をお祈りいたします。」

◎「トイレ掃除」感想文

8月26日（金）、「東京掃除に学ぶ会」の方々の協力を得て、全校生徒でトイレ掃除を行いました。3年生女子の感想文2編を紹介します。

【B組女子】

今回のトイレ掃除は昨年に引き続き2回目でした。去年は男子トイレで今回は女子トイレをやりました。女子トイレはある程度きれいだったので楽でした。

今回の目的について私は疑問をもっていました。それは「心を磨く」という目的で、私は「こんなことで本当に心が磨かれるのか…」と思っていました。初めはかなり抵抗があって、汚いからさわりたくないと思って自分から進んでやりませんでした。でも、少しずつ慣れてくるとなぜか楽しくなっていました。自分でも驚くほど集中してやっていました。終わりの時間に近づくにつれ「もっときれいにしたい！」という気持ちが生まれ、嫌がっていたトイレ掃除が少しだけ好きになりました。疑問に思っていたことが解け、その答えは「本当に心も磨かれる」でした。

今日の体験から、掃除には心をきれいにする力があると知ることができ、新しい自分が生まれたような気がします。学校だけでなく、家でも実践したいと思います。

【A組女子】

「目立たないことが成功の鍵」これを聞いて、そうかと思う人は正直少ないと思う。そしてこの言葉を実行できる人も少ないと思う。目立って汚れている所や目につく所は絶対掃除する。でも、排水口など目につかない所は見向きもしない。しかし、いちばん大事な所は「人が見ない所」。見える所だけやってもきれいではない。目につかない所をさりげなくやる。そして、やったよなんて言わないで3年間続けてみる。そうすれば世界が広がり、心が変わる。トイレ掃除には本当に力がある。そう感じる事ができた。

トイレ掃除だけではなく勉強に関しても同じ。「嫌でも陰で努力してみる。」その結果が悪くなることはないと思う。

すべてに共通すること…「努力のムダはない」ということ。目立つことをやるのではなく、陰でもコツコツ努力していれば成功の扉を開くことができると信じている。

